

「環境にやさしい稲作」にチェンジ！

【 ①品質向上 ②コスト低減 ③環境保全 】

新潟西部地域農業振興  
協議会（JA、西蒲区、  
普及センター、農業共済）

昨年度は、5月上旬の天候が悪く初期生育が低下し、品質低下の要因の1つとなりました。本年度はできるだけ初期生育を良くするような栽培を心がけ、品質向上に取り組みましょう。

## 初期生育の向上が品質の向上に繋がります

### 1 育苗後半の管理 ～活着力の強い苗に仕上げる～

- ★硬化期は原則として夜間も無被覆とする（低温が予想される場合のみ被覆する）
- ★ハウス内の温度は、昼間15～18℃、夜間10～15℃に管理する
- ★かん水は原則午前中に1日1回、硬化後半は状況によって1日2回実施する。
- ★硬化後半は外気温に慣らし、十分硬化させる。
- ★プール育苗の場合、異常低温時以外はハウスのサイドビニールを昼夜とも開放しておく。
- ★田植え4～5日前に、1箱当たり窒素成分1～2gの追肥を行う。

### 2 本田施肥量 ～思い切った減肥で品質向上、コスト低減～

- ★コシヒカリの基肥窒素量は2kg/10a（1.5～2.5kg/10a）
- ★基肥一発肥料の場合、窒素施肥量は4kg/10a（3.5kg～4.5kg/10a）
- ★早生品種では、上記+1kg/10a

### 3 疎植・小苗田植え ～良質茎の確保で品質向上～

- ★コシヒカリでは田植機セットは50株とする（砂質ほ場、早生品種では60株セット）
- ★1株4本植え 大苗厳禁！ → 50株セットの10a当たり使用箱数は15～16箱

### 4 ほ場の水持ち対策 ～除草効果向上、夏季の水管理に向けて～

- ★畦の点検、補修を行い、漏水を防止する。
- ★代かきはていねいに行い、水持ちを向上させる。

### 5 除草剤の使用 ～適切・効果的な使用方法を～

- ★一発処理剤のみの使用を基本とし、雑草多発生ほ場や作業体系上やむを得ない場合のみ、他剤との体系処理とする。
- ★初期剤の移植前処理は、田植え7日前までとする。
- ★薬剤散布時は水尻を閉じ、7日間以上止水する（薬剤成分のほ場外流出を防止）。

◆◆ 水田周囲も”環境にやさしい稲作” 「みどりの畦畔づくり運動」展開中！ ◆◆  
「みどりの畦畔づくり」で、消費者、卸業者等へ安全な生産地をアピール！  
作付期間中は水田畦畔への除草剤散布は控え、草刈りに対応しましょう。

◆ お知らせ ◆ 「巻普及センター稲作テレホンサービス」放送中！  
電話：0256 - 72 - 0948 終日お聴きいただけます